超臨界流体部会　令和 3 年度　第 1 回役員会　議事録

（役員会）
日時：令和 3 年 9 月 22 日（水）12:00～13:00
場所：オンライン会議（学会 GOING VIRTUAL システム）

報告事項

1.	NEWS LETTER No.32 に関する報告	資料 1
2.	第 20 回サマースクールに関する報告	資料 2
3.	MTMS’21 に関する報告	資料 3
4.	化学工学会第 52 回秋季大会について	資料 4
5.	2021 年度(令和 3 年度)化学工学年鑑について	資料 5
6.	会員数・会員異動について	資料 6
7.	共催、協賛事業、関連国際学会について	資料 7
8.	その他	

審議事項

1.	令和 3 年度活動計画	資料 8
2.	部会 HP の更新作業について	資料 9
3.	超臨界流体・基礎セミナーについて	資料 10
4.	セミナー　バイオマス処理における亜臨界水の活用について	資料 11
5.	令和 4 年度予算案について	資料 12
	※今年度から本格的に会計ソフトが導入，基金の計画的執行について	
6.	その他	

参加者：29 人（オンライン）

部会長あいさつ
渡邉部会長より，オンライン開催をふまえてのあいさつがなされた．

報告事項

資料 1　NEWS LETTER No.32 に関する報告

宇敷先生より報告がなされた．次回は，12 月の発行を予定している．

資料 2　第 20 回サマースクールに関する報告（基礎物性 分科会）

春木先生より報告がなされた．

資料 3　MTMS'21 に関する報告

佐藤善之先生より報告がなされた．

資料 4　化学工学会第 52 回秋季大会について

事務局より報告がなされた．笘居先生より，秋季大会の開催に関する説明がなされた．

資料 5　2021 化学工学年鑑について（とりまとめ　バイオマス・天然化合物 分科会）

事務局より報告がなされた．

資料 6　会員数・会員異動について（令和 3 年 3 月から令和 3 年 8 月まで）

事務局より報告がなされた．

資料 7　共催、協賛事業、関連国際学会について

事務局より報告がなされた．笘居先生より，7th ISHA2021 の開催に関する説明がなされた．渡邉部会長より，これから申し込める学会（ICSST2022，ISSF2022）についての情報を求める旨の発言があった．

審議事項

資料 8　令和 3 年度活動計画　（これからの計画）

事務局より説明がなされた．内田先生，長田先生よりプロジェクト研究についての説明がなされた．現在は，産総研との意見交換も含めて検討を進めている旨の発言があった．

資料 9　部会 HP の更新作業について

町田先生より説明がなされた．先日，新しいホームページに更新された旨が報告された．
また，町田先生が実際にホームページを表示し，今後は「WEB 決済」について検討する旨を説明された．

- CMS（コンテンツ・マネージメント・システム）の導入については見送りとした．
  理由：CMS 更新に要するコストがかなり高い（60 万円）．CMS を導入しなくても，これまでどおりの修正（FFFTP によるアップロード）は行えるので，それで対応したい．

- 年間更新費は 145,200 円（最大で年 12 回更新可能）．更新回数を低減し，10 万円以下となるようにすることを考えている．

- 化学工学会のサーバの移行が今後予定されているが，現時点では安全性に問題ないとのことで，学会サーバを継続利用する．

- 協賛学会のプロシーディングスの掲載については，現在 MTMS（プロシーディングスは難しいが）と交渉中．

- 渡邉部会長より，銀行振り込みからカード決済に移行できるシステムにしたい旨の発言と補足の説明がなされた．ストアーズを利用した例（東北大学工学部機械系）について説明された．ホームページのイベント（サマースクールなど）にリンクして経費処理ができることが有用と考えている．

- 大田幹事の質問に対して，渡邉部会長から「ホームページ業者と相談したところ，ストアーズが候補として挙げられる」旨の回答があった．候補としては，大田幹事も含めて今後検討することにする．

- 質疑応答において，百瀬先生より反応工学の分科会の状況についてのコメント（説明）があった．手数料が発生する，企業によっては銀行振り込みせざるを得ない場合がある（振り込みの対応），イベントと入金の時期にズレが生じるという問題があるとの説明があった．さらに，部会のイベントの回数もふまえて，決済業者を選定することが得策とのコメントがなされた．

- 渡邉部会長より，カード決済については今後も議論したいとの発言があった．

資料 10　超臨界流体・基礎セミナーについて

渡邉部会長から説明がなされた．20 周年を機にした基礎セミナーとして位置づけたい．海外での超臨界流体プロセスの適用例が増加し，国内でも企業の新規参入の動きが感じられる．時期と内容について議論したい旨の発言があった．本年度の 3 月頃に超臨界流体技術の基礎を解説する内容を案とした．

- 内田副部会長より開催について賛成する旨の発言があった．超臨界流体を見直す立場が形成されつつもあるも，国内でもセミナーが近年みられなくなった現状がある．海外の動向に対応し，部会およびメンバーをアピールする点でも意義がある．新入社員も含めるべく，4 月開催という考えも．

- 渡邉部会長より，オンライン開催を活かすべくオンデマンド対応も考えている旨の追加説明があった．内田副部会長も賛成だが，知的財産（著作権）の対応が必要との指摘があった．部会長より，検討する旨の返答があった．猪股監事より，共益で対応するなど取り扱いに注意して検討いただきたい旨の発言があった．

- セミナーを有料，オンデマンドを無料というのは不公平ではないかの指摘があった．部会長より，検討する旨の返答がなされた．

資料 11　セミナー　バイオマス処理における亜臨界水の活用について

佐々木先生から説明がなされた．熱水（亜臨界水）の利用が盛んになってきているので，バイオマス・天然化合物分科会としても，これまで（20 年以上前から）の棚卸も含めて情報発信が必要である．部会として，「誤解させるような情報にまどわされないよう，正しい情報を発信・共有する」ことを企画目的とする旨の説明がなされた．すみやかに誤解を正すべく，12 月中の開催を検討する案が示された．

- 渡邉部会長より，企業の発信する「亜臨界水」利用について誤解をまねきかねない事態が生じている旨の追加説明がなされた．具体的には，「亜臨界水」についての冊子（もしくはハンドブック）を作成することを意図とする発言があった．

- 内田副会長より，企画に問題ない旨の発言があった．科学的なコンセンサスについての質問があり，部会長から事例をもとに説明するセミナーとしたいとの回答があった．

資料 12　令和 4 年度予算案について

大田幹事から説明がなされた．本年度は基金（200 万円）の取り崩しが必要だが，来年度は取り崩しなく通常に戻る．このたたき台をもとに，11 月頃に予算の様式が定まるので改めて審議をお願いしたい旨の説明があった．

最後に部会長より
企画内容の詳細については担当者間で話し合い，開催については前向きに進めたい旨の発言があった．